

「儲かる畑地農業に向けて」—国営事業地区に関する講演会の概要—

国営芳賀台地地区で行った講演会「儲かる畑地農業に向けて」(平成22年11月27日(土)市貝町多目的ホール 主催: 関東農政局・栃木県)では、農業経営の専門家である岩手大学名誉教授の木村伸男様、戦略的に畑作経営を行っている(株)野菜くらぶの澤浦彰治様にご講演をいただきました。

また、管内各地域で先進的、独創的な取組を積極的に進めている地域リーダーや有識者等にご講演を頂き、関東農政局職員との意見交換を行う「地域リーダー・有識者との意見交換会」に霞ヶ浦用水地区で畑地帯総合整備事業の導入に尽力され、先進的な畑作営農を展開されている染野芳郎様をお招きしました。

「畑地かんがい営農による産地形成」

講師：岩手大学名誉教授

木村伸男 氏

講師紹介：●岩手大学名誉教授

●(社)畑地農業振興会理事(非常勤)

木村様は、農業経済学及び農業経営学がご専門で、これまで、長年にわたり畑地かんがいを導入した畑作経営についてご研究されています。著書に「現代農業のマネジメント—農業経営学のフロンティア」「だんだんよくなる野菜農家の稼ぎ方」など。

<講演のポイント>

今くらい良い時代はない。また、これからますます良い時代になる。高齢者が多くなり、担い手がないという現実をチャンスだと思うか、大変だと思うか。担い手がいなければ、1haでも100haでもできるということ。経営感覚で、農業のやり方はどうにでもなる。

芳賀台地の特徴は1,160haに水が入っている。水がなくては農業ができないが、その条件が整った。当地域の60歳未満で男子専業従事者のいる農家は563戸で全農家の約1割。農業をやる人の数が少なく大変だと思いがちだが、これはチャンス。農業経営は、75歳でも80歳でもできる。また、ここには、きちっとした経営のタイプがない。いわば更地。新しい絵が描ける。大変なエネルギーがいるが、一致団結して、町長をリーダーに、これから3~5年集まって勉強して欲しい。

今、日本の農業を書き直せる魅力ある時代。外からいろんな形で農業に入ろうとしている。問題はいい土地が手に入るか。水があるか。そう頭を整理して欲しい。

儲かる農業はない。儲ける農業はある。儲けようという意欲がないといけな。どれだけ儲けたいかの目標があるか。1,000万円儲けたいとか。目標が出来たらそれを月単位に落として、1月の目標、2月の目標…と決める。途中で達成できそうなくなったら、販売の仕方を変える、新たに作物を植えるなど、経営内容を変えてでも目標を達成する。そういう努力をすれば必ず儲かる。

【儲けるポイント】

①資本・土地の利用は回転がポイント

土地でもお金でも何回動かせるか。種を買えば、早く回収するため、短期間で売ること考える。一番回転の悪いのは、施設と大型機械。施設は35年。固定費をいかに持たないか。種も掛けで買えば、現金がなくても農業ができる。稲作は物財費の半分が固定費。機械をリース制で1時間単位で借りる。全部物を借りればいい。なるべく流動資本にすること。

②個人の能力を活かす

高齢化が進むというのは、安くて、能率のいい人が雇えるということ。例えば、にら生産に要する作業時間の2/3は結束。若者が3時間地べたで結束はできない。高齢者なら、きっちりいいものを作る。そういう人の能力をどう活かすか。「野菜は手間で稼げ」。また、「製品にしろ」。米を売るという発想はダメ。苗を売る。種を売る。稲をポットに植えて、子供の夏休みの宿題用に売る。3kgパックにする。稲穂や赤米を付けお歳暮用に売る。餅にして売る。いろんなやり方がある。野菜は米よりもっといろんなやり方が出来る。

栃木県

国営芳賀
台地地区



③作物の営農技術的性格を活かす

作物には、「幅」と「奥行き」と「波及性」がある。「幅」は誰でも作れるか。「奥行き」は、露地→マルチ→トンネル→パイプハウス→温室と集約ができるか。「波及性」は、技術が他の作物へ応用できること。経営には、誰にでも出来て、集約化できる作物を選ぶ。

④販売ロスを最小にし、価格の付く単位の小さいものを作れ

「売り上げ=販売量×単価」だが、販売量は生産量ではない。ロスには、市場ロスと栽培ロスがある。市場ロスの規格外は、売り方、売り先を変える。栽培ロスは、間引き菜を直売所に売る。くず米を米粉に加工して、菓子パンにして売る。また、なるべく、重量の軽いものを作る。春菊、こまつな、ほうれんそうは軽くて回転が早い。米は2kg、500g単位で売る。

⑤オンリーワン商品を作れ

誰にもまねできない作物、加工品、売り方、売り先を作る。売り先で6割を占めれば、自分で販売価格を決められる。やろうとする人がいなければいけないほどいい。

⑥日銭を稼ぐ

一番重要なのは毎日現金があること。現金なら、資材を安く買うことも出来る。資産があっても現金がなければ、倒産する。

【農業と水の関係】

水には「要の水」と「用いる水」がある。「要水」は、農業に絶対必要な土に合体した水。「用水」は手段としての水。土壌消毒、計画生産、病害虫防除、風食防止、凍霜害対策、生育促進、保温、中耕の作業効率を高める等々いろんなやり方があるが、知らない農家が多い。展示ほ場を作って、「用水」を知ることも重要。

【今、何をなすべきか】

何をやりたいか考える。水があれば、やりたいことが容易になる。儲け方はいろいろ。自分にふさわしい儲け方を考えて下さい。農業をやる人がいなくなって、自分で更地に絵を描ける状態になった。「今は、いい時代！」だと理解して下さい。